

質疑回答一覧表（武蔵野市学校施設整備基本計画策定審議会の審議経過に関する説明会）

※質問及び回答については、会場での発言をできる限り忠実に再現したものです

会場	質問	審議会事務局からの回答
芸能劇場	第3回審議会で小中学校の適正規模が「12学級以上18学級以下」にまとめられたが、適正規模を外れた学校は必ず適正規模になるように対策を講じていくことになるのか。	「中学校の適正な数」が諮問事項に入っているため、審議会で審議されている。小中学校の適正規模は、教育を第一としたときに市立小中学校全てで目指す学級数であるが、適正規模に満たない学校への対応策については、教育的な観点を大事にしながら、個々に検討する必要がある。次回第4回審議会では、第二期計画の計画期間中に改築を予定している第二中学校、第六中学校への方策が審議される予定である。
芸能劇場	自分の子どもは全校児童が1,000人を超える小学校に通っていた。現時点でまとまっている小中学校の適正規模（12学級以上18学級以下）からは外れてる状態であった。プール、体育館の使用にも制限がある状態で過ごしていた。他校のプールを借りに行くこともあった。児童数が多くて苦労はあったが、ある程度多いほうがいいと思う。	保護者として大変な思いをされたと思う。今回の意見は、パブリックコメントと併せて審議会に届けていく。
芸能劇場	第1回審議会で、会長から「OECD学びの羅針盤2030（ラーニング・コンパス）」の話が紹介されていた。未来の教育について審議会で審議されているか。	これまでの審議会では、校長、PTA、地域住民、学識経験者、市職員など、様々な立場・視点から、学校への思いを発言する機会が多かったと感じている。未来の学校の教育、必要な設備については、今後、建築の中身（ハード面）をテーマとした時に中心的に審議されると思う。
芸能劇場	未来の学校を考えるのであれば、現行制度に縛られず、先進事例を参考に検討してほしい。	今回の意見は、パブリックコメントと併せて審議会に届けていく。
芸能劇場	なぜ中学校の適正な数を審議しているのか。小学校については審議しないのか。 次回第4回審議会で、第二中学校、第六中学校改築への方策について審議される予定となっているが、その前に、未来の教育についてももっと審議を深め、目指すべき教育像を固めたうえで、適正な規模を定める必要があるのではないか。今の審議状況では、現行制度を前提にした話しかできないと思う。	中学校の適正な数を審議しているのは、第六期長期計画・第二次調整計画に記載されているおり、今回諮問されているためだと考えている。 未来の教育について考えるため、審議会委員には、学識経験者2名に入ってもらっている。例えば、武蔵野市としても、未来を見据えた学校として、大野田小学校がある。普通教室の廊下側に壁がなく、オープンスペースと連続する学校である。完成当時は使いづらと言われていたが、現在では教育面でも効果があると評価されている。今後3月に中間まとめへのパブリックコメントを予定している。ぜひ意見を寄せてもらいたい。
芸能劇場	リーフレットの中に、私立・国立進学率のグラフがあり、半分程度となっている。市立学校へ通う子どもは地域に残り支える子どもだと思ふ。将来的に進学率がどうなることを期待しているのか。	市としては、市立に通う児童生徒が増えてほしいと考えている。私立・国立への進学については、経済状況も関連する要素と考えている。市立学校への進学率を上げるため、魅力ある学校を作っていく。
芸能劇場	個人的には道路事業よりも市立学校にお金を多くかけてほしいと考えている。第五中学校、第一中学校の改築が完了したが、市としては、今後何校改築する予定でいるのか。	市の財政についての説明会ではないため、何校改築できるかは答えられない。学校改築に関連する費用としては、現時点で学校1校あたり約70～80億円程度かかっている。この金額は10年前から比べると約4割上昇しており、今後も上昇する見込みである。また、仮設校舎のリース料についても上昇しており、1校あたり15～20億円と想定している。
芸能劇場	学校改築工事に対しては、国の補助金があると思う。半分程度出ているのか。	市としては、市の負担を少なくするため、全ての改築工事について、国、都に補助金の申請をしている。実績としては、改築工事費用の1割に満たないのが現状である。
芸能劇場	第二期計画策定に関して、オンライン配信や説明会動画の配信など工夫されていてすごく良いと思う。第1回から第3回まで審議をすべて傍聴している。審議会の中で、小中学校の適正規模の「学級数」には「特別支援学級」は含まれていないという発言が事務局からあったと思う。この考え方は審議会として決定しているのか。	現時点では決定していない。今後の審議会で「武蔵野市らしさ」を踏まえて議論される中で、「特別支援学級」を「学級数」に含む可能性はある。今回の意見は、パブリックコメントと併せて審議会に届けていく。
芸能劇場	審議会の中で、会長から特別支援学級に通う児童生徒も含めて安心安全に未来の教育を受けられる必要があると発言があったと思う。今後の審議会でもこの視点を念頭に審議してもらいたい。	会長だけでなく、副会長も特別支援学級に通う児童生徒の視点は重要だと言っていた。特別支援学級だけでなく、学校に通いづらくなっていたり、怪我をしている児童生徒への視点も重要であると考えている。これらについて、市としても学級数、ハード面の整備の両面から重要なテーマとして捉えている。

芸能劇場	審議会の傍聴者アンケートが途中でなくなった。本日のような説明会でもアンケートをとり、審議会に届けてもらおうと思う。	審議会委員としては、審議会の中でしっかり議論をしたいと考えている。アンケートの実施について検討する。
芸能劇場	特別支援学級に通っていた子どもの保護者である。特別支援学級は、1学級当たりの定員数が少ないため、人数が増えると学級数を増やす必要が出てくる。障害の形も、保護者の考え方も多様性があり、対応が大変と思う。幼い時期から対応してもらえると、子どもの成長の仕方も変わる。ゆとりのある学校づくりをしてほしいと思う。	今回の意見は、パブリックコメントと併せて審議会に届けていく。
芸能劇場	ジャンボリーなど地域の人に支えられている事業が多いが、地域を支える人が減っている。市立学校は、子どもたちが将来「地域に恩返しをしたくなる教育を受けられる場」である必要があると思う。また、学校は防災の面で言っても、日頃から地域にとって開かれたものである必要がある。	全国学力学習状況調査の中では、テストの点数だけでなく、アンケート調査も実施している。アンケート回答の中で、地域、他人のためになりたいという児童生徒が多いのが武蔵野市の特徴と考えている。開かれた学校づくり協議会委員の中には、大学生だけでなく、高校生が入っている学校もある。育った地域のことを大切に思っている子どもだと感じている。
芸能劇場	第一中学校の3年生は入学時から仮設校舎で過ごしていた。3学期を新校舎で過ごせるようになりうれしく思う。小中学校の適正規模（12学級以上18学級以下）に満たない学校を、12学級以上とする必要がある場合、第二中学校と第六中学校を統合し、第六中学校の生徒の一部を第五中学校に通わせるということも審議されているのか。	第3回審議会まではそのような内容は審議されていない。次回第4回審議会では、第二期計画の計画期間中に改築を予定している第二中学校、第六中学校への方策について審議される予定である。是非審議会を傍聴（オンラインまたは対面）してほしい。また、今後も情報発信をするので注目してほしい。
芸能劇場	第3回審議会議事録を確認すると、小中学校の適正規模が12学級以上18学級以下にまとめられ、中間まとめにも記載するとあったので、もう決定事項かと思い驚いた。また、次回第4回審議会でも、第1グループの中学校（第二中学校、第六中学校）改築への方策について審議するとあり驚いていた。本日の説明で、まだ決定はしておらず、これから審議されるとわかり、誤解が解けた。小中学校は改修工事や学校いきいきプロジェクト等でお金がかかっているため、学校数を減らす必要があるのかと感じていた。教員が第一だが、事務職員の視点も踏まえて審議してほしいと思う。	適正規模（12学級以上18学級以下）は、子どもの学びを第一にこれから改築する学校の規模について審議し、審議会としてまとめた。子どもたちにとって何がベストかを審議してほしいと考えている。審議会から教育委員会への答申で決定ではなく、答申を受けて教育委員会で議論をした後、市としての結論を出すことになる。また、財政面第一ではなく、子どもの学びを第一として審議している。第二期計画では、計画期間中に改築する第二中学校、第六中学校が対象となっているが、今後の第三期計画策定の際に、第三中学校、第四中学校についても審議される予定である。今回の意見は、パブリックコメントと併せて審議会に届けていく。
芸能劇場	進学率はコロナ、バブルなど経済状況の影響を受けるのだと思う。小中学校の時に地域に接すると、地域のためを考える子に育つと思う。教育委員会だけでなく、市役所全体で取り組むべき事業だと思う。市立進学率が上がることは望ましいが、一方で教室が足りなくなる懸念もあると思う。	今回の意見は、パブリックコメントと併せて審議会に届けていく。
商工会館	未来の学校として選ばれる学校を目指したいと先日の説明会で発言があった。小中学校の児童生徒数推計グラフの算定にあたり、市立小中学校への進学率はどう設定しているのか。	市立小中学校への進学率について、市としては増加してほしいと考えている。推計は、委託した専門業者が作成している。市立小中学校への進学率の設定については、直近の進学率を参考に推計をしている。
商工会館	第3回審議会の資料3で将来の中学校学級数推計を出しているが、算定条件として、学年間の移動はできないので、全校生徒数を学年数の3で割ってから35人で割るべきではないか。推計値の確定版はいつ出るか。	想定される最低の学級数を算出するため、全校生徒数を1学級当たりの生徒数上限35人で割っている。推計値は年度内に確定する。
商工会館	審議会ですべてまとまっている小中学校の適正規模として12学級以上18学級以下と上限も定めているので、上限値についても意識すべきと考える。 委託業者から出てくる数字には、市の気持ちが入っていないと思う。審議会では、未来の学校について、未来の教育について審議されている。どういう学校にしたいかという気持ちが入った推計とすべきである。	パブリックコメントと併せて審議会に伝えていく。
商工会館	諮問では子どもの「学び」という言葉を使用していたにもかかわらず、リーフレットでは「教育」という言葉に置き換えられているのはなぜか。今後も学校改築を進めるにあたり、市債についてどう考えているのか。	「学び」は幼児から生涯学習までの長いスパンを指す言葉、ここでは、小中学校の期間に使用する学校施設と考え、「教育」という言葉を使用している。今後工事費が高騰する中で、予算に加え、補助金、基金、市債をやりくりして改築していく。市として財政シミュレーションを行っているが、今後は基金が減り、市債が増えることになる想定している。

商工会館	第一期計画は策定「委員会」、第二期計画は策定「審議会」と会議体の名称が異なるが、検討の段階が異なるのか。	会議体の名称は異なるが、検討段階は同様である。教育委員会からの諮問に対し、令和8年12月に審議会から答申が出され、その後、教育委員会で決定する。
商工会館	中学校の生徒数推計グラフがリーフレットvol.5に記載されているが、小学校の児童数推計はあるのか。	小学校の児童数推計グラフは第3回審議会資料としてホームページで公開している。審議会への諮問内容が中学校の適正な数のため、リーフレットには中学校生徒数推計グラフのみ記載している。なお、中学校については、向こう5年程増えていき、その後減っていく推計になっている。小学校は現時点がピークで、今後減っていく推計になっている。
商工会館	第五小学校、第一中学校出身である。第一中学校は校庭で部活動する際に、照明があった。夏は暑いので、夜間に校庭で活動できるといい。照明の設置は審議会で議論されたのか。	個別の事項なので、第一中学校の改築懇談会で議論されたのだと思う。改築懇談会の経過については、ホームページで公開している。第二期計画については、計画の対象期間に改築予定の第二中学校、第六中学校、第二小学校、境南小学校改築のを検討する際の基礎となる。
商工会館	改築校にプールは設置されるのか。温水プールでない限り、夏の時期にしか利用できない施設である。	全ての小中学校に関係する事項のため、来年度の審議会で審議されることが想定される。
商工会館	改築校に冷暖房設備は設置されるのか。	普通教室、特別教室、職員室など、長時間使用する部屋には設置されている。
商工会館	第一中学校新校舎を見学したいが、どうすればよいか。	卒業生であれば、学校に電話で相談するといいい。来週に内覧会も予定されており、その後も見学は可能と考える。
商工会館	残りの学校もすべて改築するのか。	建物に対する方策として、改築と大規模改修による延命化があるが、第一期計画の中で、全校改築することとしている。
商工会館	東京都では高校の授業料が無償化されているため、中学校から私立の中高一貫校に進学する子どもが増えることが想像できる。リーフレットvol.5に記載されている中学校生徒数推計グラフよりも生徒数が増えることはなく、どこまで現在の市立中学校進学率を維持できるかだと思う。生徒数は少ないよりも多いほうがいい。また、教員の負担軽減という意味でも、教員数は多い方がいいため、統合はしょうがないと感じている。	小規模校、大規模校にはそれぞれに良さがある。次回第4回審議会では、第二期計画の対象である第二中学校、第六中学校への方策が審議される予定である。パブリックコメントと併せて審議会に伝えていく。
商工会館	第五中学校新校舎で過ごす生徒がゆったり、伸び伸びと過ごしていることが確認できた。第五中学校と第一中学校の特徴を教えてください。	共通のコンセプトとしては、発表階段、ラーニング・コモンズ（学校図書館）、学年コモンズ、不登校児童生徒対応室などの部屋が挙げられる。第五中は、大きく吹き抜けている五中ステップ（発表階段）、第一中学校は吹き抜けたラーニング・コモンズが一番の特徴である。本日第一中学校は始業式があり、新校舎の使用がスタートした。初日からラーニング・コモンズが利用されているのが印象的だった。また、第一中学校は太鼓演奏団体が施設開放で利用しており、太鼓の収納があるのも特徴的である。
商工会館	建物老朽化への対応として改築するという話と、今後議論になる「統合する」という話は関連しない話なのか。	現在第1グループの改築を進めており、第五中学校、第一中学校は完成し、今後、第五小学校、井之頭小学校が改築される。この4校の後には、第1グループ後半の第六中学校、第二中学校、第二小学校、境南小学校の改築を控えている。第二期計画の計画期間中にこれら4校の改築を予定しており、改築にあたっての最善策を検討するため、今回の審議会でも審議を行っている。次回第4回審議会でも、第二中学校、第六中学校改築への方策が審議される予定である。
商工会館	統合はどうなっているのか。	現時点では、何も審議されていない状況である。次回第4回審議会でも、第二中学校、第六中学校改築への方策が審議される予定である。
商工会館	生徒数推計を業者に頼むと、地域に畑がありマンションが建つ可能性があること等、人口が増える要素を見込んだ推計ができないのではないか。地域の実情をよく知っている人の話をよく聞いてほしい。	推計を進めるうえで、人口が増減する要素である、マンションや戸建て住宅の開発については、具体的に事業がスタートしていないと推計の条件に加味出来ない。パブリックコメントと併せて審議会に伝えていく。
商工会館	統廃合がメインテーマだと感じる。以前吉祥寺南町に保育園を建てる際に、子どもの数に関する推計値の説明があり、子どもが増えるという推計だった。結果的に子どもは増えていない。児童生徒数推計を行うにあたって、大きく外れないようにしてほしい。	専門業者と協議し、様々な要素を基に児童生徒数推計を行っている。

商工会館	第一中学校の改築懇談会に参加していたが、改築懇談会では、学校に関係する団体が参加し、意見交換をすることができた。もちろん全ての意見が叶ったわけではないが、今日始業式を迎え、生徒たちが先生と新校舎の中で過ごす時の子ども達は本当にうれしそうに顔をしていたのが印象的だった。地域連携室のような地域が使える部屋があれば、不登校対応室、休み時間を過ごすコモンズなど様々な部屋ができている。反省点としては、地域が使える部屋はあるが、使う際のルールを計画段階で議論できていればよかったと感じている。	パブリックコメントと併せて審議会に伝えていく。
スイングホール	第六期長期計画・第二次調整計画に「未来における教育を見据えた校舎のあり方」と入れたことに賛成であった。しかし、これまでの審議会や今回の審議会では、未来における教育や不登校対策についての審議が足りていないと思う。不登校や教員の心の病での休職人数は増えている。日本は、OECD加盟国の中で最低ランクであり、改善すべき事項があると思う。	審議会では、教育を第一に議論している。不登校対応、働き方改革については、第2回審議会で、第四期学校教育計画を紹介した際など、これまでの審議会でも審議されている。例えば、働き方改革について、カフェスペースなど休憩スペースがあると良い、教職員が意思疎通しやすいといいなど、これまでの審議会でも審議されてきた。ご指摘の点は、今後の審議会ですらに審議されることが想定される。ご意見について、パブリックコメントと併せて審議会に伝えていく。
スイングホール	少人数学級がさらに進む場合の学級数のシミュレーションなどが出されていない。また、第五中学校は第3回審議会でまとまった小中学校の適正規模（12学級以上18学級以下）に対応した校舎になっていない。	中学校の1学級当たりの人数については、来年度から東京都が学級編成基準を40人学級から段階的に35人学級に変更することを見据えて、35人として検討している。また、現在第二期計画で規定する内容は、第二中学校、第六中学校、第二小学校、境南小学校に適用されるため、第五中学校は対象外であるが、多目的室や習熟度教室を普通教室に改修することで、18学級にも対応可能である。
スイングホール	審議会で適正規模の「学級数」には特別支援学級は含まれていないと話があったが、先日の説明会では、今後の審議会の審議によっては、特別支援学級を含む可能性もあるとの回答があった。また、現在学習指導要領の改定中だが、特別支援学級ワーキンググループでは、特別支援学級の改革を進める方向性になっている。このことを審議会に伝えてほしい。全体の児童生徒数は減っていくが、特別な支援が必要な子どもは増えていく。本日の説明会動画でも特別な支援が必要な子どもも地域にとって大切だという発言があったが、どうあるべきかをよく考えてほしい。生徒数推計グラフには特別支援学級の人数は含まれているか。	小中学校学級数の適正規模に、特別支援学級を含むべきではという意見があったので、今後の審議経過によっては入る可能性もあると回答した。学習指導要領に関する特別支援学級ワーキンググループの話があったが、確認したい。特別支援教育についても、今後の審議会で審議される想定である。
スイングホール	小学校区は地域コミュニティと密接に連動している。小学校、中学校の学区域を変更する場合、地域から大きな反対があると思う。是非地域の意見を聞きながら決めてほしい。	承知した。
スイングホール	小中学校の適正規模を7学級から国と同様の12～18学級にすることだが、リーフレットvol.4に記載されている「学級数が少ないことによる課題」は実際に教員が言っている内容なのか。学校で働いていたが、大規模な学校は、児童生徒と密に接することができないため、問題が多く発生していた。決まりましたとあるが、もう決定しているのか。	審議会委員から出ていた意見である。小中学校の適正規模については、現時点では審議会としてまとめた段階である。今後、令和8年3月に中間まとめが教育委員会へ報告された後、令和8年12月に審議会から教育委員会へ答申され、教育委員会で審議した結果、市として決定していく。
スイングホール	現場の先生の声も聴く場を作ってほしい。	令和7年5月に全校教職員を対象に、アンケート調査を実施している。今後は、令和8年3月にパブリックコメントで意見を募集する。その際には、意見募集が行われていることを教職員にも案内する予定である。

スイングホール	<p>国は全国的な学級数の方向性として「標準」を示しているのに対し、実際に学校をつくり運営する自治体が「適正規模」として設置するという関係性であり、呼び方が異なるのだと思う。市として、適正規模を設定するのであれば、適正規模未満の学校への対応はどうするのかという問題が生じる。第三回審議会を傍聴した際に、小学校は審議会での審議対象ではないと整理されていたが、適正規模に満たない規模の小学校が過半数になるにもかかわらず、審議しないというわけにはいかないのではないか。</p> <p>小中学校の適正規模（12学級以上18学級以下）についてまだ決まっていないとのことだが、私の記憶では、会長が決まったと発言していた。</p> <p>国の説明で、学級数が少なすぎると先生が少なく、手が回らないとあり、審議会でも同様の発言があった。一方で、学級数が多すぎると教室が足りなくなるなどの課題があるが、審議会ではこの点が審議されていない。</p> <p>長期計画では傍聴者へのアンケートがあるが、本審議会では、実施しないのか。</p>	傍聴者アンケートの実施についてだが、審議会委員には市民もあり、審議会任期中にアンケートをもらうと自由に発言できなくなるという意見もあり、実施していない。しかし、市民の声は重要であるため、アンケート調査を実施する方向で審議会と調整する。
スイングホール	学級数に関する国の基準は、教育の観点と科学的な観点によるものではなく、あくまでも学校施設の標準として示しているという理解でよいか。市として12学級以上18学級以下が小中学校の適正な規模とするのであれば、教育内容等、様々な要件から適正だと言いきれない。1学級当たりの人数も国が上限値を定めている。小中学校の適正規模についても、上限値を決めるのはありだが、下限を定める必要はないのではないか。	ご意見としてパブリックコメントと併せて審議会に伝えていく。
スイングホール	学級数に関する国の基準は、教育の観点と科学的な観点によるものではなく、あくまでも学校施設の標準として示しているという理解でよいか。審議会として、現行の「7学級以上」は適正規模ではなく、最小基準を定めており、12学級以上18学級以下という適正規模を新たに定めるという理解でよいか。	<p>学級数に関する国の基準については、学校教育法施行規則で定められており、標準的なサイズを示しているが、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りではないとされている。武蔵野市として国の標準が適正かということが第2回、第3回審議会でも審議されており、子どもの教育を第一としたときに、教育面や教員の働き方改革などの観点から国の標準である12学級以上18学級以下が適正規模だろうということでもまとまった。適正規模を外れた場合に即時に問題があるということではなく、その場合の課題と方策について審議する必要があるとあり、次回第4回審議会でも審議される予定である。審議する際の基準として、適正規模を定めている。都内の7割程度が国の基準と合わせている実態がある。</p> <p>1校7学級以上の基準については、現行の第1期計画策定の際に当時の最低の学級数を維持するという視点で定められている経緯がある。</p>
スイングホール	審議会では中学校しか審議しないとあったが、なぜ小学校の適正規模についてもまとめているか。学校教育法施行規則では、「小中学校の学級数は、12学級以上18学級以下を『標準』とする」とあるが、市の審議会では、「適正規模」としている。言葉の違いは何か。また、リーフレットvol.4で、「教育的な視点から国と同様の『基準』に見直す方向で進んでいます」という記載があるが、国の「基準」ではないため、誤解を招くと思う。また、小中学校の適正規模については、現時点では審議会としてまとめた段階という説明があったが、リーフレットvol.4では、「武蔵野市は（中略）、教育的な観点から国と同様の基準に見直す方向で進めています」と記載があり、矛盾しているのではないか。	パブリックコメントと併せて審議会に伝えていく。
スイングホール	第五中学校、第一中学校が完成したが、第3回審議会でもまとめた適正規模の上限18学級に対応できるのか。	現状の普通教室の数としては、足りていないが、多目的室や習熟度教室等を普通教室に改修することで対応できる。
スイングホール	第二期計画の対象期間中に改築する学校（第二中学校、第六中学校、第二小学校、境南小学校）以降が第3回審議会でもまとめた適正規模の上限18学級に対応できるように計画されるのか。	その予定である。

スイングホール	第2グループの小中学校改築の頃には、子どもが減ると思う。新しく綺麗な学校は魅力的に映るが、古い学校は設備も不十分で魅力的に映らない。設備が整っている私立と比較すると、やはり私立進学率は下がらないと思う。公立の小中学校の未来の学校づくりについてももう少しわかりやすく発信した方が、子育て世代に響くと思う。また、もし統合して、学級数が多くなると先生が見る子どもの数も増え、課題が生じると思う。学級数についての議論だけでなく、未来の学校づくりをもっと審議してほしい。	各学校の教育活動、市の事業の発信については、改善すべきと感じている。各学校、市で実施している取り組みが、地域含めた学校関係者に届いているのかを把握することも、開かれた学校づくり協議会を今年度から全校で展開している一つの理由である。今後の発信について工夫していきたい。
---------	--	---